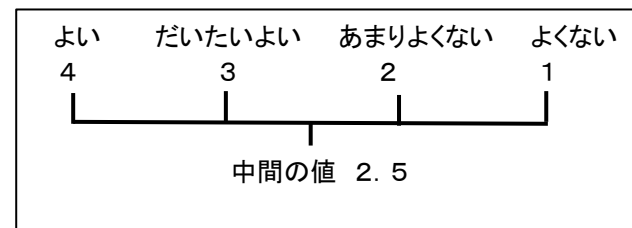
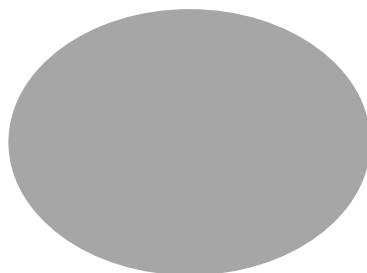


平成30年度

宮崎市立生目台西小学校学校評価 自己評価書 及び 学校関係者評価書



- 評価基準は4段階評価とし、右の通りです。
- 自己評価の欄には、アンケートから、児童・保護者・職員の評価のそれぞれの平均を記載しました。
- 学校関係者評価は、学校関係者評価委員8名に、自己評価、現状及び自己評価の分析、対策について評価していただきました。評価基準は同じく4段階とし、平均を記載しました。また、ご意見もいただきました。
- 高い評価の3.5以上、やや低い評価の3.0未満を網掛けにして表示しました。

	重点目標	評価項目	自己評価			学校関係者評価	現状及び自己評価の分析	対策
			児童	保護者	職員			
学び続ける子どもを育てる(知)	1 学習意欲の向上と自ら進んで学ぶ学習態度の育成	① わかる授業をめざし授業の改善に努める。(内容の精選、児童の実態に応じた指導、的確な指示・発問)	3.38	3.17	3.27	3.69	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中間の値である2.5を下回る項目がなく、大きな課題となるものはない。</li> <li>○ ①③④⑦について、社会科を中心に校内研究で取り組んでおり、学習問題を設定し、資料などを見て考え自分の意見をまとめることができるようになってきている。</li> <li>○ ②の「わかる・できるまで指導する」について職員の評価がやや低い。⑥の職員の評価はやや高く、繰り返しの指導に努めているが、個々の学力差への対応がさらに必要だと感じているためと思われる。</li> <li>○ ⑤について6年生の全国学力調査(国語A、国語B、算数A、算数B、理科)の正答率は全国平均を全ての教科で上回っている。4・5年生のみやぎき学力調査(国語A、国語B、算数A、算数B)について、5年生は国語が県平均を下回るが、算数は上回っている。4年生は国語Bが県平均を下回るが、他は上回っている。</li> <li>○ ⑧については、ほとんどの家庭が協力的であるが、負担に感じているという声もあり、意義を説明することと合わせ、家庭学習の方法も検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①③④⑦については取組を継続していく。</li> <li>○ ②⑥については、朝のスタディタイム、授業における年度末の復習などの時間を活用し補っていく。</li> <li>○ ⑤について、国語の学力向上を図る必要があり、年度末に向けて習熟の時間を多く設定していく。また、来年度もNIEタイムを設定したり、授業の中で発表の機会を増やすよう努めたりすることで、読み取りや言葉による表現の力を育てる。</li> <li>○ ⑧については、参観日で意見を聞いたり、説明を行ったりし、改善を図っていく。</li> </ul>
		② 児童がわかる・できるまで指導する。(理解度の把握、定着・習熟の時間確保、見届けの徹底)	3.38	3.17	2.91	3.06		
	2 社会科を中心とした思考力・判断力・表現力の育成	③ 考える視点(比較、根拠の明確化など)を示し、自分の意見をまとめる指導をする。	3.18	3.21	3.27	3.69		
		④ 発表の機会を増やしたり、NIEタイムを活用し、多様な表現をする力を育てる。	3.07	3.10	3.40	3.56		
	3 一人一人の児童の実態に応じたきめ細かな指導の充実	⑤ 全国学力、みやぎき学力、標準学力検査等の結果を分析し、対策を立て実践する。	/	3.10	3.18	3.44		
		⑥ 基礎学力定着のため、徹底した繰り返しの指導を行う。	3.44	3.19	3.45	3.69		
	4 学び方を学ぶ学習習慣の形成及び家庭学習の定着	⑦ 問題解決的な学習を授業に取り入れる。	3.21	/	3.18	3.44		
		⑧ 家庭学習の方法等について学級だよりや懇談会で保護者に説明し、連携を図る。	3.41	3.25	3.20	3.81		
<b>学校関係者評価委員の意見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的・基本的な学習の更なる充実を図ってほしい。</li> <li>○ 全体的には良いが、②の職員の自己評価が上がるようにしてもらいたい。</li> <li>○ 社会科を核とした学力向上の取組がすばらしいと思います。</li> <li>○ 家庭学習は個々の実態は分からないが、宅習の充実を図ってほしい。</li> <li>○ 児童によって家庭学習の差がかなりあるように思われます。特に暗記することが苦手のように思われます。</li> <li>○ 国語力の低下は、全ての教科の読解力の乏しさにもつながると思うので、とりこぼしが無いよう丁寧な指導をこれからも継続して力をつけていってほしい。</li> <li>○ 学力面では国語が若干心配されるが、全国学力調査等、全体としては目標値を上回っており大変評価できる。それは授業参観やコスモス発表会での児童の様子からも伺い知れる。今後も、少人数学習や習熟度別学習、読書週間の強化等で知、徳、体のバランスの取れた教育活動に取り組んでいただきたい。</li> <li>○ 読書する習慣を身に付ける指導、読書活動の推進を図ってほしい。</li> <li>○ 保幼小連携として、1・2年生との交流会が計画・実施できたことで幼小の教育が円滑な接続に向けた手立てになった。更に教職員間の接続期カリキュラムについての合同研修や打合せ会等も希望したい。</li> <li>○ スタートアップカリキュラムについて学校長直轄で成功させていただきたい。このことで、当校の、さらに日本の初等教育の質は2割向上します。</li> <li>○ 重点目標と評価項目が大変分かりやすく、それぞれについて大概いい結果が得られている。</li> </ul>								

	重点目標	評価項目	自己評価			学校関係者評価	現状及び自己評価の分析	対策
			児童	保護者	職員			
心やさしい子どもを育てる(徳)	5 進んであいさつができる子どもの育成	⑨ 全校朝会などの場であいさつの意義を指導し、児童が主体的にあいさつ運動に取り組むよう指導する。	3.55	3.25	3.42	3.69	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中間の値である2.5を下回る項目がなく、大きな課題となるものはない。</li> <li>○ ⑨のあいさつについて児童の自己評価が高い。しかし自ら進んで、という点ではさらに指導が必要である。</li> <li>○ ⑩については、異学年交流の取組、ハートフル週間の設定、学級経営・道徳・学活・日常の指導などにおいて、計画的に、また随時、全体及び個別の指導に努めている。</li> <li>○ ⑪については、教育相談、毎月のすこやかアンケートなどにより、いじめ根絶・防止に向けて取り組んでいる。いじめ件数は「悪口を言われた」等のものを除いた数である。2件のいじめで継続しているものはない。また不登校傾向1件については、保護者、関係機関と連携し、対応や支援に当たっている。</li> <li>○ ⑫については、6年生が朝のボランティア清掃を行っており、本校の伝統となっている。通常の清掃も全学年、意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ⑨については、「自ら進んで」ということを意識づけるよう、機会をとらえて指導していく。</li> <li>○ ⑩については、指導を継続していく。</li> <li>○ ⑪については全体的な取組を継続し、個別のケースについても保護者、関係機関と連携し改善を図っていく。</li> <li>○ ⑫については、指導を継続していく。すでに5年生に対して、朝のボランティア清掃への意欲づけを図っている。</li> </ul>
	6 思いやりのある言葉づかいができる子どもの育成	⑩ 児童が互いに認め合い励まし合い、思いやりのある人間関係が醸成される学級経営や日常指導を行う。	3.31	3.32	3.33	3.56		
		⑪ 定期的にいじめ等に関するアンケートを実施し、職員の共通理解を図り迅速な対応をする。	2.99	3.24	いじめ2件 不登校傾向1件	3.25		
	7 無言で清掃に取り組むことができる子どもの育成	⑫ 進んで無言清掃やボランティア活動等に取り組む意欲や態度を育てる。	3.02	3.38	3.31	3.69		
<b>学校関係者評価委員の意見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 互いを認め合う活動の推進、あいさつ指導、教育環境の充実が図られている。</li> <li>○ 今後とも連絡ノート等を活用し、家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣の定着を図ってほしい。</li> <li>○ 高学年になるほど人間関係が固定化し、トラブル対応能力が育っていないように思われます。</li> <li>○ 不登校傾向の児童に対して、学校は対応や支援に努力していると思う。</li> <li>○ いじめについては難しい部分が多いので今後も根絶・防止に努めてもらいたい。</li> <li>○ ⑪について、アンケート、教育相談で児童から事実が拾えているのはありがたい。学校への信頼がみられる。</li> <li>○ 参観日等、学校訪問のたびに、学校長の教育に対する強い思いが教師を通じて児童・クラスのすみずみまで浸透していることを感じます。優れた学校経営がなされています。</li> <li>○ 5・6年生の玄関口での朝のあいさつ運動や6年生のボランティア活動は下級生にも良い影響を与えていて、大変素晴らしいと思います。今後も、昼休みや給食、下校後の遊び等を通して、いじめの無い、他人を思いやる心の醸成に取り組んでほしい。徳育は目に見えない、数字に表れないだけに大変難しいと思いますが、更なる推進をお願いしたい。</li> <li>○ 学校内だけではなく、いろいろな機会を捉えての心の教育が素晴らしいと思います。</li> </ul>								

	重点目標	評価項目	自己評価			学校関係者評価	現状及び自己評価の分析	対策	
			児童	保護者	職員				
心と体をきたえる子どもを	8	規則正しい生活習慣の形成	⑬	家庭と連携し、早起き・早寝・朝ごはんの定着を図る。	3.34	3.26	3.17	3.31	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ⑬については指導を継続する。</li> <li>○ ⑭⑮については、来年度は、握力、上体起こしのTスコア向上を目指す。</li> <li>○ ⑯の立腰指導については、ポスター掲示など児童の委員会活動を通して、さらに意識づけを図る。</li> <li>○ ⑰については取組を継続していく。</li> </ul>
	9	体力向上に向けた取り組みの計画的な実践	⑭	体力向上プランに基づき、楽しめる授業の工夫を行い、運動の意欲を高める。	3.64	3.47	3.27	3.56	
			⑮	体力向上プランに基づき、握力のTスコア50以上を目指す。	3.04	/	3.10	3.31	
	10	立腰指導の徹底	⑯	立腰の意義を指導し、立腰指導を推進する。	2.96	2.82	3.27	3.25	
	11	チャレンジ遠足の企画と実施	⑰	チャレンジ遠足を通して頑張り抜く心を育てる。	3.89	/	3.33	3.69	
<b>学校関係者評価委員の意見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活リズム「早寝、早起き、朝食を取る」を今後とも指導充実させてほしい。</li> <li>○ 体育科学習への取組が積極的である。今後ともチャレンジ遠足の取組を図ってほしい。</li> <li>○ 体力向上と健康推進、指導結果が出ている。</li> <li>○ 最後まで頑張ろうとする根気強さや困難なことに対して挫けない強い心が薄くなっている気がする。（低学年の体育の授業を参観して感じました。）</li> <li>○ 応援や楽しみがあると努力する傾向はあるのでチャレンジ遠足のような工夫は成果が期待できるのでいい。</li> <li>○ 早寝、早起き、朝ご飯の規則正しい生活習慣は保護者の理解もあり概ね定着していると思います。これは学校生活への基本的な生活習慣であり、学習面にも多いに影響すると思います。一部ゲーム等で外での遊びが減っているようにも見えますが、全体としては体育授業やチャレンジ遠足等で児童は気力、体力共に向上していると思います。</li> <li>○ 活動の基本である心と体を生徒指導面とタイアップして行っているのがすばらしいと思います。</li> </ul>									

	重点目標	評価項目	自己評価			学校関係者評価	現状及び自己評価の分析	対策
			児童	保護者	職員			
しっかり食べる子どもを育てる(食)	12 弁当の日の計画的な実施と家庭との連携	⑱ 家庭と連携した弁当の日の取組により、食の実践力を育てる。	3.36	3.18	3.18	3.19	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中間の値である2.5を下回る項目がなく、大きな課題となるものはないが、3.0未満の評価が知・徳・体・食の中で一番多い。家庭との連携・協力を重点目標等に掲げたことで成果を上げることが難しかった。</li> <li>○ ⑱の弁当の日の取組について、家庭は大変協力的であるが、負担に感じているという声もあり、実施方法などを工夫する必要がある。</li> <li>○ ⑲⑳について保護者及び職員の評価がやや低い。家庭への働きかけ、情報提供がさらに必要である。</li> <li>○ ㉑の評価から、給食時のマナー指導を行っているが、家庭で十分に生かされていないことがうかがえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次年度は児童に対する食の指導に力点を移し、保護者の負担感を減らす。</li> <li>○ ⑱の弁当の日の取組については、実施日を保護者の意見を参考に検討する。</li> <li>○ ⑲⑳については参観日の懇談を生かし、さらに情報提供に努める。</li> <li>○ ㉑については、給食時だけでなく一般的な食事のマナーについても指導を行う。</li> </ul>
	13 食に関する講話等の計画的な実施	⑲ 学校保健委員会や参観日を活用し、家庭への食に関する情報提供を行う。	/	3.26	2.73	3.00		
	14 給食時のマナーに関する指導の充実	㉑ 給食指導を通して食事のマナーを身に付けさせる。	3.37	2.79	3.42	3.69		
	15 偏食に関する指導の充実と家庭との連携	㉒ 給食指導や家庭科・学級活動等の指導、家庭への働きかけを通して健康維持・向上にふさわしい食事をとる意識や態度を育てる。	3.30	2.88	2.82	2.94		
<b>学校関係者評価委員の意見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 弁当の日、家庭と連携し実施方法を工夫してほしい。</li> <li>○ 給食指導、食事マナー、今後とも充実を図ってほしい。</li> <li>○ 食について、家庭でのしつけの部分を担当いただき、保護者は感謝するべきだと思う。</li> <li>○ 食べることは本来家庭でしっかり基本的な事はやるべきだと思います。何もかも学校頼りになっていることに疑問を感じます。</li> <li>○ 家庭（保護者）と児童と学校（教職員）が連携を図るべく食育だが、家庭の協力が困難になってきているのが伺えるが健全な心と体づくりのためにも食育の推進を継続してほしい。このまま努力してほしいです。</li> <li>○ 学校と家庭で連携し、食育に努めてもらいたい。</li> <li>○ 食に関して保護者の評価が若干低いのは心配です。食育は学校での指導は勿論ですが、むしろ家庭での取組が重要です。保護者も共働き等でなかなか大変な状況だとは思いますが、今後も情報発信等で保護者の理解、協力を図り、連携して食育の推進に努めていただきたいと思います。</li> <li>○ 学校の指導だけでは難しい内容を、あえて1項目と設定し取り組まれていることがすばらしいと思います。</li> </ul>								

<b>学校関係者評価委員よりその他の意見</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各評価項目は期待できる指導内容である。</li> <li>○ 将来の夢につながる教育の充実、読書活動・図書館教育の充実を図ってほしい。</li> </ul>
--